

東京湾再生官民連携フォーラム
平成 25 年度事業報告及び決算報告

平成 26 年 3 月

東京湾再生官民連携フォーラム

I. 事業期間

平成 25 年（2013）4 月 1 日 ～ 平成 26 年（2014）3 月 31 日

II. 事業の成果

平成 25 年 11 月 23 日に開催した東京湾再生官民連携フォーラム設立総会では、当日の会員受付を含め、出席会員数 224 名と大規模な総会となり、放送大学来生教授をフォーラム議長に選出するとともに、5 つのプロジェクトチームの発足が承認され、議長から各 T 長が指名された。

また、フォーラム設立後、今回のフォーラム及び東京湾大感謝祭へ多大なご支援を頂いているセブン-イレブン記念財団との協定締結式を行い、フォーラム設立総会は無事終了した。

午後から開催された東京湾大感謝祭は、1,200 人を超える来場者数があり、トークショー、東京湾の生きた魚の展示、江戸前の料理試食等を楽しむと共に、東京湾再生に取り組む多様な主体からのパネル展示などに見入っていた。

一方、東京湾再生官民連携フォーラムの会員数は、平成 25 年 8 月 13 日に会員募集を開始して以来、平成 26 年 3 月 31 日現在、団体会員 93 団体、（民間 28、NPO 等 26、レジャー 1、水産 2、大学・研究 6、行政 30）、個人会員 221 人（民間 67、NPO 等 33、レジャー 6、水産 2、博物館 2、大学・研究 31、行政 24、個人 39、企画委員メンバー 16）となり、官民多数の参加が得られた。

III. 事業実施に関する事項

1. 事業スタートのための準備作業の実施

東京湾の再生を図るため、内閣官房都市再生本部で決定された都市再生プロジェクト（第三次決定）（平成 13 年）に基づき設立された東京湾再生推進会議（平成 14 年設立）において、平成 25 年 5 月 31 日に「東京湾再生のための行動計画（第二期）」（平成 25 年度～34 年度）が策定された。

これに基づいて、一般財団法人みなと総合研究財団内に、準備会合事務局の組織をつくり、「東京湾再生官民連携フォーラム」立ち上げのための準備を開始した。

1-1. 準備会合を都合 4 回実施し、第 4 回目に設立事項が決議され、東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員会が発足した。

(開催経過)

●東京湾再生官民連携フォーラム準備会合 第1回会合
平成25年4月24日(水) 16時半～18時
場所：みなと総合研究財団

●東京湾再生官民連携フォーラム準備会合 第2回会合
開催日時：平成25年6月25日(火) 16:00～18:00
開催場所：虎ノ門HILLS 6階 A会議室

●東京湾再生官民連携フォーラム準備会合 第3回会合
平成25年8月7日(水) 16時～18時
東京夢の島マリーナ会議室

1-2. 東京湾再生官民連携フォーラム準備会合 第4回会合の実施

開催日時 平成25年10月10日 16:00～18:10

開催場所 第2秋山ビル(虎ノ門HILLS) 6階 A会議室

出席者：來生委員長ほか事務局含め24名

会議内容

1. フォーラムの今後の進め方について

(1) 設置要綱(案)、運営ルール(案)、こころざし(案)について

(2) 企画運営委員会の設立について

・委員長の選出

・企画運営委員の会員登録

(3) 第一回フォーラムの開催について(11/23)

(4) 東京湾大感謝祭について

2. その他

(1) フォーラムHPについて

(2) 東京湾大感謝祭の周知について(プレス発表)

1-3. 準備会合委員会を第1回企画運営委員会として設立発足

平成25年11月23日に第1回総会を開き、正式に「東京湾再生官民連携フォーラム」の組織を設立する。フォーラムでは、東京湾再生に意欲を持つ多様な人々が集い、東京湾再生に係る現状や課題を理解・共有し、共に解決策を模索し、東京湾の魅力を発掘・創出・発信すること等により、東京湾再生の輪を広げる活動に取り組む。そして、そうした活動から育成・醸成された多様な関係者の総意をとりまとめ、東京湾に関わる関係省庁及び自治体から構成される「東京湾再生推進会議」へ提案する役割をにな

う。

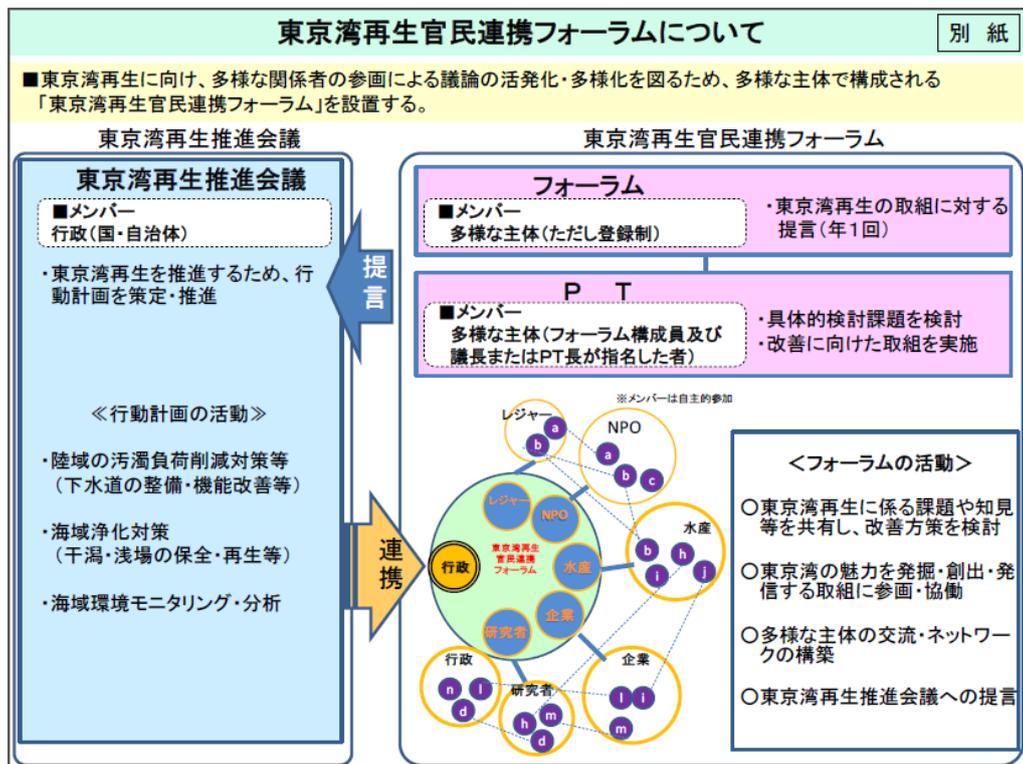
2. 東京湾再生官民連携フォーラム支援のための基本協定書を締結

平成 25 年 11 月 23 日東京湾再生官民連携フォーラムがスタート。

東京湾再生官民連携フォーラム（以下甲という）と一般財団法人セブン・イレブン記念財団（以下乙という）は、「共通の理念・相互信頼」のもと、「東京湾再生に意欲を持つ多様な関係者が有するあらゆる英知を結集し、連携や協働を行うこと、また、これらの活動を通して生み出される東京湾再生への多様な意見を尊重しつつ提案として取りまとめる」ための活動を共に協力し、実践するために基本協定書（以下本協定書という）を締結。

3. 事業スキーム

- 1) 東京湾の再生にあたっては、東京湾に関わる企業、研究者、水産関係者、レジャー関係者、NPO、市民、行政等の多様な関係者が、その英知を出し合い、共に連携協働し、楽しみながら環境再生の取組をする、新しい文化を育てていくことが必要であり、そのため、多様な者との連携・協働を進める場として「フォーラム」の役割がある。
- 2) フォーラムでは、東京湾の環境再生への参画・協同を呼びかけ、東京湾再生に係る現状や課題を理解・共有し、共に解決策を模索し、東京湾の魅力を発掘・創出・発信すること等により、東京湾再生の輪を拡げる事業を次の構造の中で実施していく。



4. 東京湾再生官民連携フォーラム事業項目（フォーラム設置要綱抜粋）

【目的】第1条

フォーラムは、東京湾の環境再生や東京湾のシンボルである「江戸前」の再興に向け、行政、大学・研究機関、水産関係、企業、レジャー、NPO/NGO等の東京湾再生に意欲をもつ多様な関係者が有するあらゆる英知を結集し、連携や協働を行うこと、また、それらの活動を通して生み出される東京湾再生への多様な意見を尊重しつつ、提案としてとりまとめることを目的とする。

【活動】第2条

フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) 東京湾再生に係る課題や科学的知見、再生のための取組、ノウハウ等を共有し、改善方策を検討する。
- (2) 世界に誇るべき東京湾の魅力を発掘・創出・発信する取組に参画・協働する。
- (3) (1) 及び (2) を目的とした多様な主体の交流の場を提供し、ネットワークを構築する。
- (4) 東京湾再生推進会議による「東京湾再生のための行動計画（第二期）」に基づく取組その他、東京湾再生に向けて検討又は実施すべき事項等について、多様な関係者の総意をとりまとめ、東京湾に関わる関係省庁及び自治体から構成される「東京湾再生推進会議」に対して提案する。
- (5) 総会を開催する。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事項を実施する。

5. 総会の開催及び東京湾大感謝祭の実施

平成25年11月23日（土）東京都江東区青海 タイム24ビルにおいて東京湾再生官民連携フォーラム設立総会を行うとともに「東京湾大感謝祭」を開催した。

5-1. 平成24年度総会の実施

設立総会 平成25年11月23日（土）

場 所：東京都江東区青海 タイム24ビル

総会での決議事項は下記のとおり。

1. 東京湾再生官民連携フォーラム 設立総会
2. 東京湾再生官民連携フォーラム設立の背景
3. 東京湾再生官民連携フォーラム設置要綱
4. フォーラムの運営ルール
5. 東京湾再生官民連携フォーラム設立のこころざし

6. プロジェクトチーム 企画

プロジェクトチームは下記のとおり。

- ①生き物生息場づくり P T 企画
- ②指標 P T 企画
- ③モニタリング P T 企画
- ④東京湾大感謝祭 P T 企画
- ⑤江戸前ブランド P T 企画

6. 会員募集の実施 (2014.2月までの推移結果)

平成 25 年 8.13 より事前に会員募集の実施をホームページなどを通して行う。東京湾再生に向け、多様な関係者との連携・協働による取組を進める場として、11 月 23 日に設立する予定の「東京湾再生官民連携フォーラム」(以下、フォーラムという)の趣旨に賛同し参加を希望する会員がこの会員に当たる。

東京湾の再生にあたっては、東京湾に関わる企業、研究者、水産関係者、レジャー関係者、NPO、市民、行政等の多様な関係者が、その英知を出し合い、共に連携協働し、楽しみながら環境再生の取組をする、新しい文化を育てていくことになる。

募集開始は平成 25 年 8 月 13 日より開始

賛同された会員の状況は下記のとおり。

◇ 会員数 推移 (平成 26 年 3.31 日)

	平成 25 年 8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平成 26 年 1 月	2 月	3 月
団体	12	12	10	53	1	4	0	1
累計	12	24	34	87	88	92	92	93
個人	24	21	56	107	2	6	1	4
累計	24	45	101	208	210	216	217	221
合計	36	69	135	295	298	308	309	

7. 東京湾大感謝祭 活動

二期計画では「江戸前」を目標に加え一般市民に対する東京湾再生への関心を醸成するとともに、平成 25 年 11 月 23 日の東京湾再生官民連携フォーラムの設立に際して、東京湾の恵みに感謝し、魅力を楽しむ「東京湾大感謝祭」を実施した。

7-1. 東京湾大感謝祭プログラム概要

平成 25 年 11 月 23 日

時 間	項 目	内 容
13:00-13:20	東京湾大感謝祭 開会式	タイム 24 1階 ホール 1
	オープニングセレモニー	横浜市立 川井小学校
13:00	開会挨拶：東京湾再生官民連携フォーラム 企画運営委員会委員長 來生新 放送大学副学長	来賓祝辞：野上浩太郎国土交通省副大臣、秋元司衆議院議員、大西英男衆議院議員、江東区山崎孝明江東区長
13:20	UMI プロ認定証授与式	対象者：(一財)セブン-イレブン記念財団、(株)高千穂、味の素(株)
13:35	トークショー	日本テレビプロデューサー島田×海洋環境専門家・木村ダッシュ海岸
14:35	リレートーク	小泉武夫・発酵学者「江戸前と東京湾を語る」
16:05	江戸前ブランドお披露目式	
16:20	閉会	(全体の終了は16:30)

その他展示内容

- 東京湾を見て味わう
- 東京湾で遊ぶ
- 東京湾の歴史を感じる
- パネル展：東京湾を知る(東京湾再生の取り組み)



7-2. イベント会場（フォーラム設立総会&東京湾大感謝祭の展示状況）

東京湾再生官民連携フォーラム設立総会の様子



東京湾大感謝祭の様子



8. 広報掲載実績

フォーラム設立&東京湾大感謝に関する記事を中心に、18件掲出される。特筆は東京新聞の夕刊ではあるが、一面トップ記事扱いとなった。このことは、会員数拡大にも好結果をもたらした。

掲載日付	掲載媒体	内容
2013.09.13	つり情報	東京湾再生とは何か
2013.09.30	つり情報	フォーラム会員募集
2013.10.05	月刊ボートクラブ 11月号	フォーラム会員募集
2013.10.09	東京新聞一面夕刊	フォーラム設立案内
2013.11.01	広報よこすか	東京湾大感謝祭開催案内
2013.11.08	月刊ボートクラブ 12月号	東京湾大感謝祭開催案内
2013.11.08	月刊日本橋	東京湾大感謝祭開催案内
2013.11.11	MSN産経ニュース	東京湾再生へ官民連携 23日にフォーラム設立
2013.11.15	週刊つりニュース案内	東京湾大感謝祭開催案内
2013.11.15	読売朝刊くらし 12版	東京湾大感謝祭開催案内
2013.11.18	NHK 総合テレビ「あさいち」	東京湾大感謝祭開催案内
2012.12.5	月刊誌「ボートクラブ」1月号	東京湾再生へ官民連携 23日にフォーラム設立
2013.12.11	日経エコロジー185012014_0001 ト レンド&ニュース 生物多様性	東京湾大感謝祭開催
2013.12.14	つり情報	フォーラム発足
2013.12.17	東京新聞夕刊	東京湾大感謝祭開催
2013.12.17	港湾新聞	フォーラム設立総会開催 東京湾大感謝祭開催
2014.1	月刊ダイバー	東京湾大感謝祭開催
2014. 1. 5	つり人 No.812	フォーラム設立総会開催 東京湾大感謝祭開催
2014. 1. 5	月刊誌「ボートクラブ」2月号	フォーラム設立総会開催 東京湾大感謝祭開催

9. HP 掲出件数

東京湾再生官民連携フォーラムの専用サイト設定して、広報活動を実施する。

ホームページのアドレスは次のとおり。<http://tbsaisei.com/index.html>。

同サイトでは、フォーラムの意義、ルール、組織体制の案内をはじめとして、

- 1.フォーラム会員の募集、
- 2.5つのプロジェクトチームの活動案内
- 3.フォーラム設立総会報告、東京湾大感謝祭報告

を中心に日々の活動に関する新着情報コーナーを作り情報発信に取り組んでいる。

現在まで 20 件の情報をアップし、会員の情報、感謝祭の結果、媒体で取り上げられた掲載記事、アンケート結果などを掲出している。今後、さらに情報量の拡大を図っていく。

10. Face book へのリーチ数

2013.10 月 9 日スタート 2014.3.31 までの累計リーチ数：16,172

(「リーチ数」とは、[Facebook ページ](#)でウォール投稿した際に、その投稿(コンテンツ)を見た人の数の事)

11. 東京湾大感謝祭の来場者アンケートの実施（課題の発見）

1) アンケート属性の課題

内陸都市部の参加の増加、20,30 代の参加増加が今後、望まれる

来場者との比率を想定すると現在、東京都、神奈川県、千葉県で、90%を超えているアンケート結果から内陸部の参加が少ないことがわかる。具体的には、埼玉県など内陸部の参加の増加が課題となる。また、年代別では、比較的 40,50 代を中心として比率が高く、全体的に高齢者の参加が多くなっている。今後の 10 年間で踏まえ、20 代を中心として、東京湾再生意識、参加意識を高めていく必要がある。

2) 参加型イベントによるコミュニケーション

オープニングの参加が子供たちにとり好評

イベント中でも、音楽での参加は、子供たちにとり緊張もした楽しくやり遂げることができたという達成感のような気持ちが湧いている。参加することでコミュニケーションを図ることが、思いが強くなる。参加型のイベントは今後も重要性を増していると判断できる。

3) 東京湾への日常性

東京湾を訪れる頻度のアップ

日常接する機会が少ないことが課題となる。年に一度という回答も多く、簡単に東京湾に接することができるスポットが望まれる。

4) 東京湾への日常性

「市民が近づける水辺や干潟を増やす」

東京湾のために使われる税金は、第 1 位は、「市民が近づける水辺や干潟を増やす」、第 2

位が「泳げるような水のきれいな東京湾を復活させる」、さらに3位には「江戸前の文化や伝統を守るための環境を保全・再生する」が挙げられました。

5) 東京湾のイメージ

工業地帯であり海上輸送の場としての機能認識が高い

東京湾は、工業、産業には寄与しているというイメージが高く、自然が持っているイメージを抱く人は、多くない。公害問題から始まり東京湾が持つ良さを想起できる取組が重要と判断できる。

11-1. アンケート結果概要

期待のイベントプログラム 好評な“東京湾を見て味わう”

2013年11月23日(土)、東京湾の再生に向けた活動を行う「東京湾再生官民連携フォーラム」が設立され、これに合わせて、東京都江東区・青海のタイム24ビル内で東京湾の海の恵みに感謝するイベント「東京湾大感謝祭」が開催された。イベント会場の受付でのアンケートを実施、来場者の方々が、東京湾をどのようにとらえているのかなど、今の東京湾に対する思いを紹介。

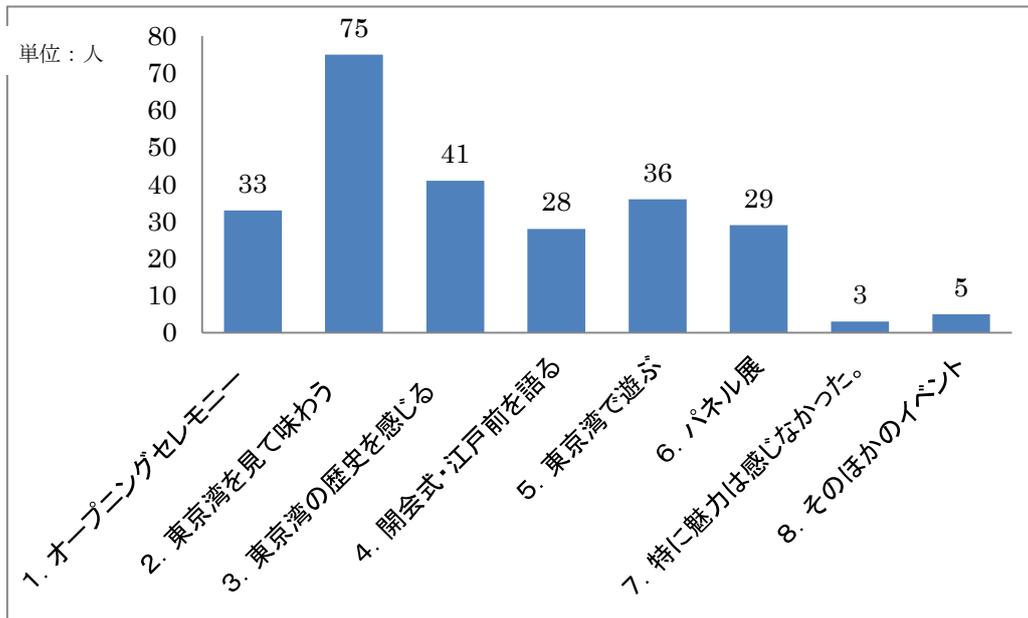
【アンケート調査概要】

- ・調査名 : 東京湾大感謝祭 来場者アンケート
- ・調査方法 : イベント会場内 受付配布
- ・調査対象 : 東京湾大感謝祭来場者
- ・調査期間 : 2013年11月23日
- ・有効回答数 : 146件
- ・内容 : 感謝祭参加理由や東京湾へのイメージなど

調査結果の問合せ先 : 東京湾再生官民フォーラム事務局 電話 : 03-5408-8298

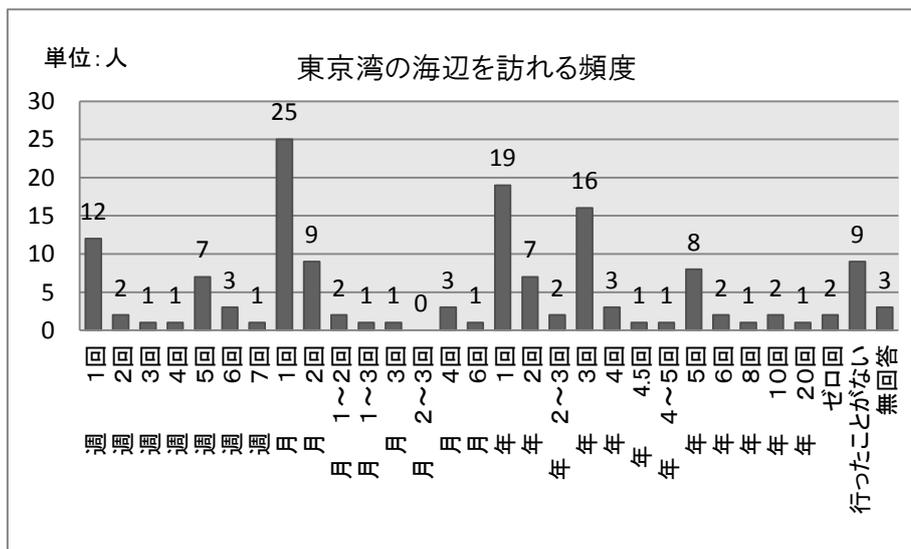
■大感謝祭では江戸前の味の試食や東京湾で獲れた魚の展示を行った。親子の会話の中に子供たちの喜ぶ、「この魚は何」といった会話が飛び交いました。プログラムを事前に見てもらい、その期待が寄せられました。東京湾を見て味わうが75通と多く、また、子供たちにも参加ができたオープニングセレモニーも子供たちに好評のようです。

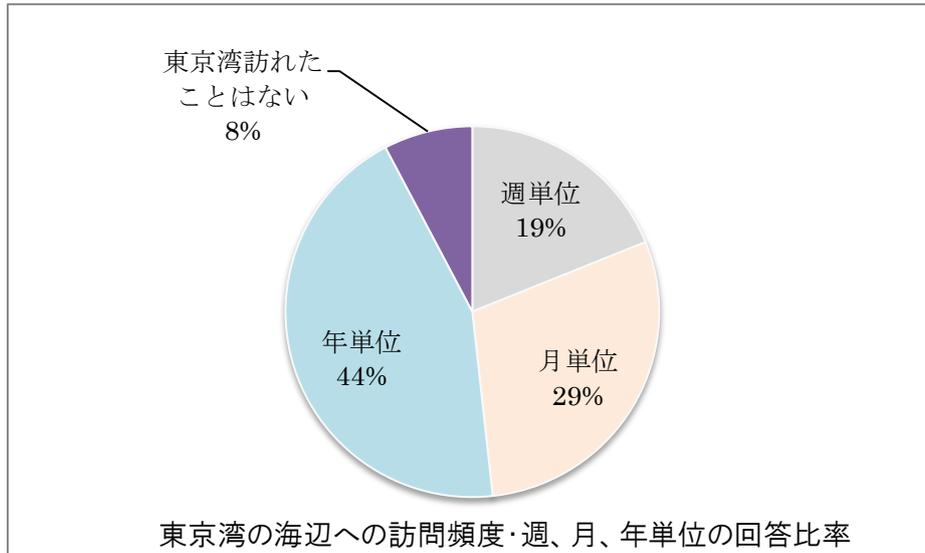
(複数回答)



東京湾の海辺を訪れる頻度は、月 1回がトップ

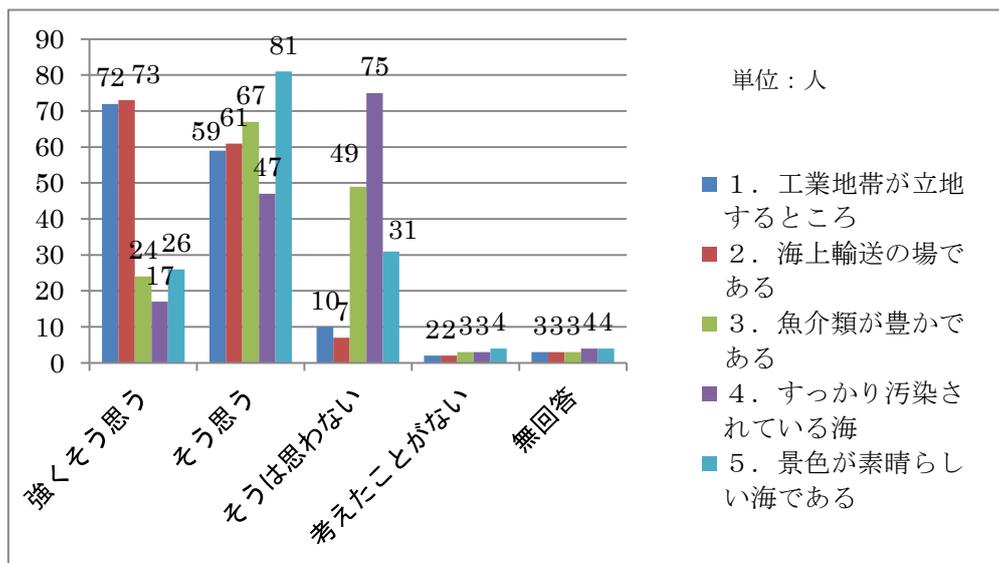
■東京湾を訪れる頻度を年、月、週の単位でたずねたところ、月1回が25人とトップで次いで年1回、年3回となりました。接触頻度が少ないことが気になります。また、それぞれの回答内でも、年で応えた比率が、全体の44%を占め、月で応えた29%を上回るなど、東京湾の海辺への頻度が少ないことがうかがえる結果となりました。訪問頻度を上げる魅力ある東京湾が期待されます。





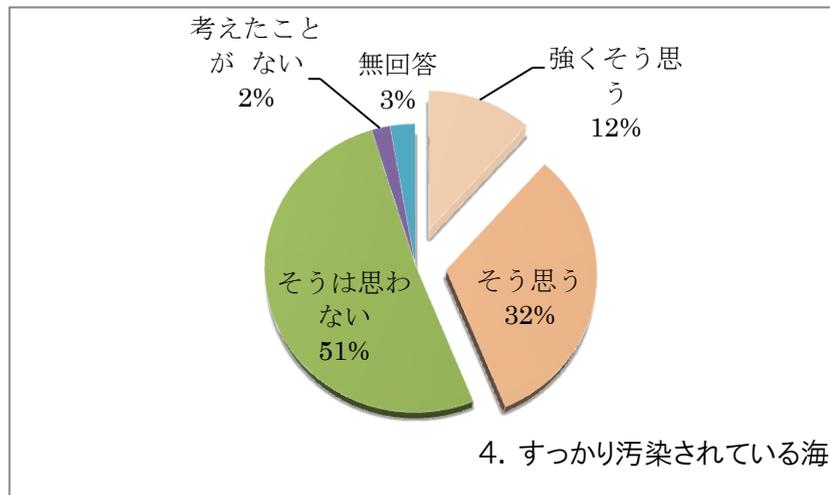
東京湾は工業地帯が立地するところのイメージが強いが、65%の人が東京湾には、魚介類は豊かな海が存在しているイメージを持つ

■自分が抱く東京湾のイメージを該当する中から選択してもらいました。中でも、工業地帯が立地するところの印象がどの項目よりも強い印象を与えています。逆に、“魚介類が豊かである”というイメージに対しては、「強くそう思う+そう思う」で、65%を占め、反対に「35%」の回答者が、そうは思わない、と応えています。



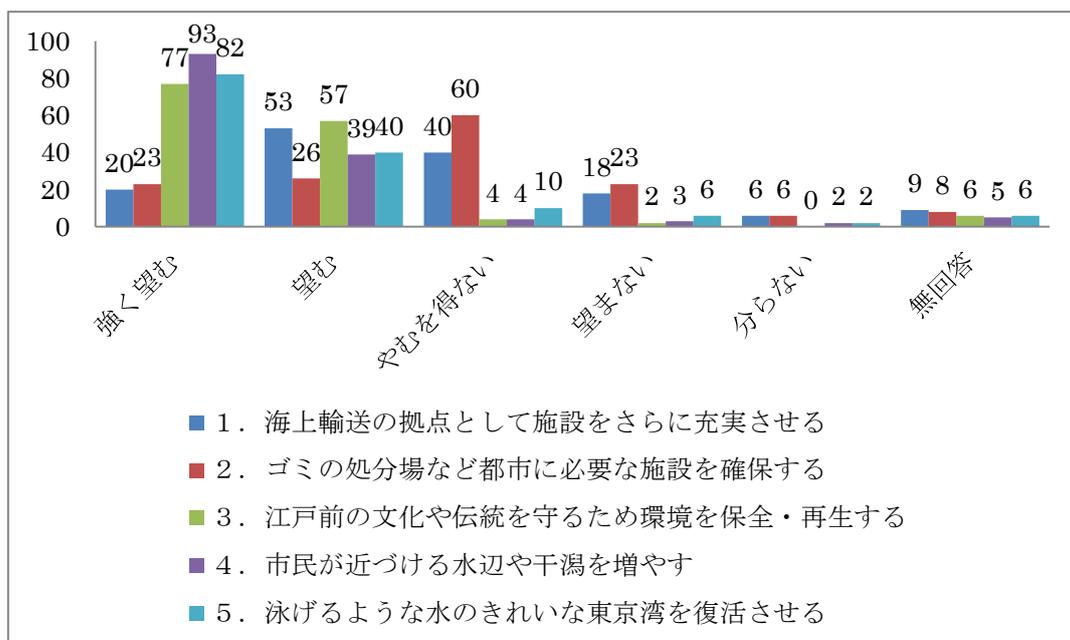
二分する東京湾の汚染イメージ

■イメージが拮抗しているのが、東京湾に関する海の汚染で、「すっかり汚染されている海」というイメージに「強く思う+そう思う」が44%、「そう思わない」と回答した方が51%で、かろうじて半数を超えています。



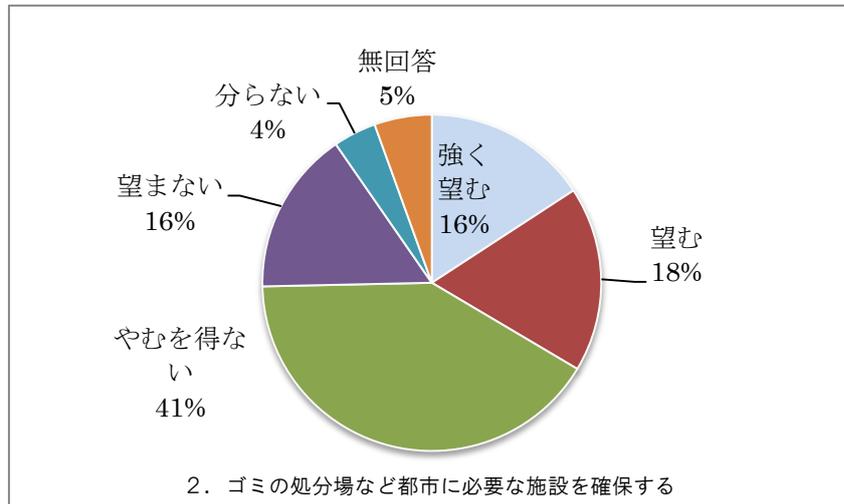
税金の使われ方の希望、 第1位は「市民が近づける水辺や干潟を増やす」

■「あなたが支払った税（消費税含む）が東京湾のために使われるとしたら、どんなことに使われることを望むか」の設問に対しては、「強く望む」の第1位は、「市民が近づける水辺や干潟を増やす」、第2位が「泳げるような水のきれいな東京湾を復活させる」、さらに3位には「江戸前の文化や伝統を守るための環境を保全・再生する」が挙げられました。



ゴミ施設はやむを得ない41%と高い比率

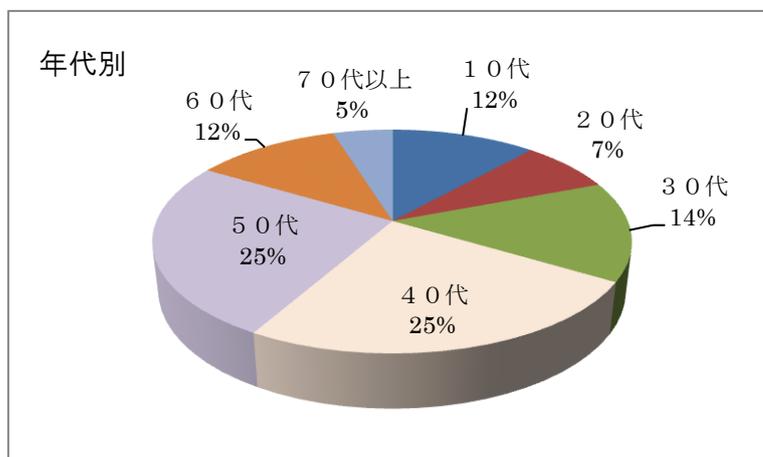
- やむを得ないとい回答が目立つ項目は「ゴミの処分場など都市に必要な施設を確保する」項目で、「強く望む+望む 34%」、「やむを得ない 41%」「望まない」16%とゴミの持つ課題がほかの施設とは、異なることが浮きぼりとなりました。



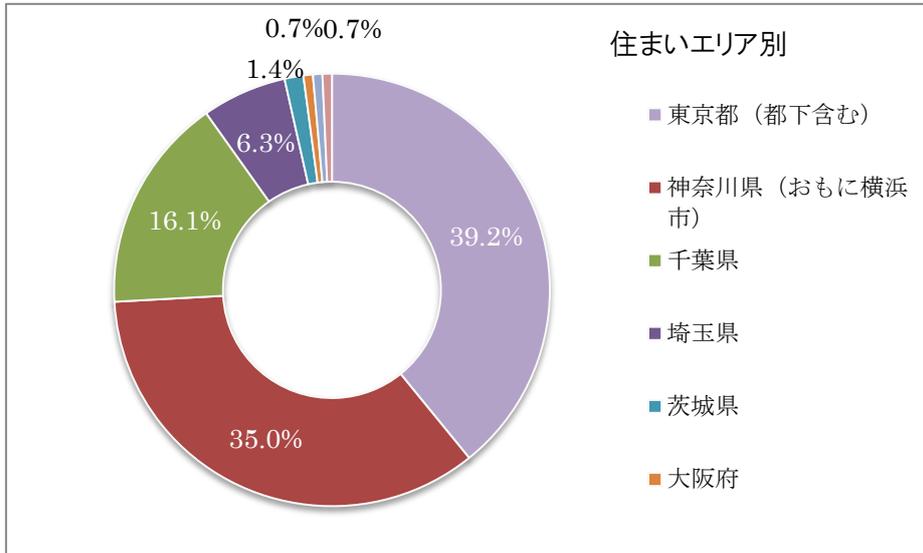
■回答者属性（会場内でのアンケート回収）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
男性	7	8	14	25	29	13	5	101
女性	10	3	7	11	8	4	2	45
	17	11	21	36	37	17	7	146
性別不明				1				1
性別年代不明				10				10

■年代別比率



住まい別の比率（イベント訪問者の住まい）



12. 2014.1月プロジェクトチームの活動状況

東京湾再生のための5つのプロジェクトチーム（PT）活動スタート 2014年1月中心に第1回目の会合実施。今年の各PTの活動は、約20～40人へと大幅に参加者が増加し、積極的な議論がスタートしている。第1回目の会合が1月に実施され、活動の具体化がスタートした。40人にも会議参加者が膨れ上がると、一つのテーマだけでも、討議に時間を有するが、結果どのPTでもスムーズな議論・討議が行われた。

おもにPTの活動方針の確認、今年の目標や具体的な活動内容、目標達成のための方法、その工程が議論され、また、活動目標を達成するための突っ込んだ議論も交換された。今後、どのPTもメーリングリストなどによるコミュニケーションの活発化を図る予定で、さらに会合スタイルも一部のPTでは、グループ討議を導入するなど、個人の積極的な参加、具体的な活動に結び付く環境の整備などを図っていく。

◇モニタリングPT（PT長 横浜国立大学 客員教授 古川 恵太）

【ミッションの確定】

東京湾の現状を把握し、その変化傾向や変化機構を探ることが再生の礎となるという重要性に鑑み、東京湾再生推進会議（以下、推進会議）と協働し、モニタリングの実施及び成果についての普及、啓発を推進することをミッションとする。主な対象事業として、推進会議の実施する「東京湾における流域および海域の環境一斉調査（旧称：東京湾水質一斉調査）」（以下、一斉調査）を対象とする。

2013年12月20日：第1回PT会合実施、同時に東京湾環境一斉調査ワークショップ開催。
8月：東京湾環境一斉調査参加予定

◇生き物生息場づくり PT (PT長 東京大学大学院 教授 佐々木 淳)

【ミッションの確定】

多様な関係者が連携し、生き物の生息場を創出するアイデアを提案する。また、これらの活動のうち、民が主体的に実施できるものについては、その枠組、メリット（インセンティブ）、PR方策等について整理・検討する。

2014年1月28日：第1回PT会合実施

1. アマモ場再生、2. 生き物生息場の具体的な検討を開始。特に2. に関しては、幹事会をつくり実現に向けて、さまざまなアイデア募っていく。

◇指標 PT (PT長 国土交通省国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長 岡田 知也)

【ミッションの確定】

東京湾再生に向けた様々な目標を達成するための多様な主体による種々の活動を適切に評価できる指標を、多様な関係者と協議して検討し、H26年度のフォーラムに提案として提出する。

2014年1月22日：第1回PT会合実施

指標のもつ基本的位置づけなどを確認しながら、指標の役割・意義に関して多くの意見交換が実施された。中でも実効性のある指標としての位置づけや指標が持つ目標と評価に関する議論が交わされた。さらに、東京湾全体だけではなく固有のエリアに関して注意を払う必要性が議論された。

今後、指標が持つイメージ整理をおこない小目標決定を実施する。最終日を7月22日に設定し東京湾大感謝祭での発表などを視野に入れ、今後月1回程度の会合を持つ。

2014年2月18日：第2回PT会合実施

全体目標を構成する要素ごとに具体的な目標として小項目を設定し、PTメンバーを6つのグループに分け、小目標の要素の抽出を行った。

2014年3月25日：第3回PT会合実施

提案する指標レベル（小目標（評価軸）の提示について議論され、指標の数値は個別の自治体・団体が設定したらどうかの意見が交わされたが、今後PTでは、具体的な指標およびその数値を決める方向で議論および作業を進めることとなった。

◇東京湾大感謝祭 PT (PT 長 NPO 法人海辺づくり研究会 理事・事務局長 木村 尚)

【ミッションの確定】

東京湾各地で行われている様々なイベント等を集約・創出し、東京湾に触れあい、学び、楽しみながら、環境について学ぶ機会を提供する。

2014年1月22日：第1回PT会合実施

前回の東京湾大感謝祭への反省とともに、今後の活動に向けた具体的強化策が提案される。実行委員会の設立が決定される。幹事役として、ハマの海を想う会 代表 吉野さんが選出される。

2014年3月6日：第1回実行委員会実施

(株)舵社 田久保さんが実行委員長に選任された。

各WGおよびPTメンバー作成の企画提案書が配布され、全22件の企画提案が紹介された。

フォーラム総会、東京湾シンポジウム及び大感謝祭の同時開催について議論され、10月24日(金)～26日(日)の間での開催が検討された。また、会場は、横浜赤レンガ倉庫が候補として、企画運営委員会で決定することとなった。

今後スポンサーをお願いするため、「東京湾大感謝祭2014」(開催概要・出展案内)を作成し、企業回りをすることとなった。

◇江戸前ブランド PT (PT 長 水産庁増殖推進部研究指導課 情報技術企画官 上田 勝彦)

【ミッションの確定】

多くの魚介類が獲れる東京湾の魅力を、「江戸前」という言葉に乗せて、加工品や料理の魅力を具体的に味わうことのできる東京湾として発信し、高度成長期の湾岸開発による被害から立ち直りつつある都市隣接型のこの海を、我が国、ひいては世界における再生のモデルとして、広く伝えることをねらいとする。またその活動を通して、湾岸に住む人の暮らしの変化に伴いこれからも変わりゆくであろうこの海の、過去・現在・未来の姿を、「江戸前の魚」を通して検証し、この海のブランド性を追究する。

2014年2月24日：第1回PT会合実施

江戸前体験機会の向上、情報の発信・運用方法等について議論され、3月末までに東京湾で取れる魚介類と漁獲量の調査表を作成することとなった。

13. ロゴマーク募集の実施

東京湾再生をシンボリックとなるロゴデザインを公募。

1月27日よりホームページに掲載。ロゴマークを募集した結果、10人、16点の応募があり、5月8日に選定審査を実施する。

◇会員向けメール案内の実施

◇デザイン・美術系などの専門学校への個別のご案内の実施を予定

・文化学園への実施教授の方々へ配布 ご案内

**「東京湾再生官民連携フォーラム」
ロゴマークの募集！**

東京湾再生・第2期の行動計画（平成25年5月策定）が始まっています。目標は、『快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、親しみやすく美しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する』ことです。今後一層、東京湾の再生に向けた活動を広く社会に向けてPRし、より東京湾を親しみやすく、身近に感じてもらうためのロゴマークを広く募集いたします。みなさんのアイデアをお待ちしています。

応募作品提出メールアドレス
logo2014@tbsaisei.com

賞品
グランプリ大賞
 アイデア賞
 スマイル賞
 ユニーク賞
 佳作賞(2作品)
 合計4作品への賞品授与

「東京湾再生官民連携フォーラム」とは…
 フォーラムでは、東京湾の再生に向け、多様な主体・機関組織の交流の場を提供しています。参加者は、新しい東京湾の魅力を自ら発掘・発信する活動を実施していき、さらにこの活動を通して、東京湾がもつ現在の課題や解決策についてより深く、 「東京湾再生推進会議」に対し提言することを目的として活動しています。

**平成26年3月7日（金曜日）
当日消印有効、メール必着**

応募作品送付・問合せ先
 東京湾再生官民連携フォーラム事務局「ロゴマーク募集係」
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-1-10 第2階の門田ビルディング4階（一般社団法人みはと総合研究財団内）
 E-mail：logo2014@tbsaisei.com

14-1. 募集要項 詳細

募集内容	<p><u>ロゴマークに求めるコンセプトは次の通りです。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京湾を親しみやすく、身近に感じてもらうための表現 ・東京湾再生の目標をみんなで実現していくロゴ ・東京湾の元気を表現し、さらに発展する表現 <p>手書き、パソコン使用など、デザイン方法、画材 デザインタッチは問いません。応募件数制限はありません（一人複数提出可能）なお、応募締切日に 18 歳未満の応募者は親権者の同意署名・捺印が必要です。</p> <p>（応募フォームなどは、下記の HP に掲出、ダウンロードしてご使用ください。 http://tbsaisei.com/index.html）</p> <p><u>グランプリ大賞が東京湾再生官民フォーラム正式ロゴマークとなります。各種レポートなど取組の成果物や広報媒体（ホームページ、各種印刷物等）に表示し積極的に活用します。</u></p>
応募方法	<p>郵送または電子メールで応募してください。応募用紙に必要事項記入の上、用紙に貼りこみご応募ください（必要事項とともにご送付ください）</p> <p>(1)郵送の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募用紙 1 枚につきロゴマーク作品 1 点とし、応募作品は折り曲げないでください。 ・手描き作品の場合は、応募用紙に貼り、原画を郵送してください。 <p>デジタル作品の場合は、応募用紙に貼りこみ処理をして、作品を CD-R、DVD-R などのメディアに保存。同時にプリントアウトを同送してください。</p> <p>(2)電子メールの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CD-R、DVD-R などのメディア保存と同様に、応募用紙に貼りこみ処理をして下記指定のアドレスまでメール添付してください。 <p>※ロゴマーク作品の画像データ(JPEG 形式または GIF ないしは PDF 形式をお願いします。容量 1MB 程度で添付)</p> <p>※ロゴが採用された場合、後日オリジナルデータをご提出いただきます。</p> <p>メールの件名は「ロゴマーク応募」としてください。</p>
募集期間	平成 26 年 1 月 27 日(月)～3 月 7 日(金)(郵送は当日消印有効)
賞品	<p>グランプリ大賞、アイデア賞、スマイル賞、ユニーク賞、佳作賞（2 作品） 合計 6 作品に対して賞品授与</p> <p>※受賞者が高校生以下の場合は、保護者の方に商品を代理授与します。</p>

選考方法	<p>選考委員会において選考します。全応募作品の中から入賞作を決定します。</p> <p>選考 6 作品：審査委員：東京湾再生官民連携フォーラム議長 放送大学副学長 來生 新 他 2 名の 3 名での審査を実施</p> <p>入賞結果は発表を以ての通知といたします。（http://tbsaisei.com/index.html）結果掲載</p>
応募資格 条件	<p>(1)応募作品は、未発表かつ自作に限ります。</p> <p>(2)応募作品は返却いたしません。</p> <p>(3)応募作品は、第三者の著作権、商標権等の権利を侵害しないもの及び公序良俗に反しない ものに限ります。</p> <p>(4)採用作品に係る著作権等諸権利は、東京湾再生官民連携フォーラム事務局に帰属するものとします。</p> <p>(5)採用作品は、一部補作することがあります。</p> <p>(6)採用作品の決定・発表は、平成 26 年 3 月末を予定しております。</p> <p>(7)審査の結果、選定されない場合があります。</p> <p>(8)応募者の個人情報、審査事務に必要な範囲でのみ使用し、他には流用しません。</p> <p>なお、受賞者の氏名及び住所(市区町村名まで)については公表いたします。</p>

15. 東京湾再生官民連携フォーラム平成 25 年度 第 2 回企画運営委員会の開催

企画運営委員会が開催され、下記の 7 つの項目にわたる討議、決議が行われる。同様に後述の 4 つの項目が事務局より報告される。

1. 開催日時：平成 26 年 3 月 25 日(火) 15 時 00 分～17 時 00 分
2. 開催場所：第 2 秋山ビル（虎ノ門 HILLS）6 階 A 会議室
住 所：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-6-2

1) 平成 26 年度事業計画（案）

【決定事項】

- ・予算の金額提示をなるべく早くすること。
- ・フォーラム総会開催は 10 月とする。
- ・企画運営委員会は 5 月、7 月、9 月、3 月の開催予定とする。
- ・企画運営委員会、総会、シンポジウム、PT など、それぞれの機能・役割は提案通りとする。
- ・以下の 4 つの平成 26 年度重点施策について承認される。

①政策提案のための活動：指標 PT の 10 月のフォーラム総会で政策提案など、政策

- 提案を採択できる準備をする。
- ② P T活動の活発化サポート：新設 P Tに対する活動をサポートする。
 - ③ 連携・調整（コーディネート）マッチング活動：会員同士、NPO 同士、企業と NPO などを結び付けるような情報集約を行って、紹介していく。
 - ④ I T機能の強化：上記①～③のために事務局の IT、ネットワーク機能の強化を図る。

2) 新 P T の設置に関して

・「海水浴場復活 P T」、「パブリック・アクセス P T」の 2 件の申請が提出された。これを受けて、企画運営委員会では、下記の事項に関して、検討が行われる。

【決定事項】

- ① 新 P T の選定手順方法の決定。
- ② 新 P T がフォーラムに参加するガイドラインの作成。（事務局作成）
- ③ 上記 2 件の新 P T は、次回開催の企画運営委員会に於いて、申請者の招請を行いヒアリングの実施を進め協議していく。

3) 東京湾再生官民連携フォーラムから東京湾再生推進会議への政策提案の手順について

【決定事項】

提案通りの手順で承認される。提案の手順は、厳密な手順としてではなく、「緩いしほり」として運用することとする。最終的な政策提案を念頭に、各 P T 活動の成果は文書の形でまとめるものとする。

4) フォーラム設置要綱の改訂について

【決定事項】

- ・ 第 14 条 (3) P T の設置及びそのミッションの指示を削除。
- ・ 第 21 条第 2 項 P T の設置及び審議する事項（以下、「ミッション」という。）は、総会において定める。→ 企画運営委員会において定める。（審議事項 2-2 関連）
- ・ 第 30 条情報公開の審議事項その他の公開に、企画運営委員会を加える。
- ・ 新たに退会ルールを定める。

5) 東京湾再生官民連携フォーラムの英語表記に関して

【決定事項】

- ・ 「The public and private sectors cooperation forum for Tokyo-bay restoration」をもとに、事務局で検討し決める。
- ・ 英文略称：Tokyo-bay pp forum の使用が確定する。

6) フォーラムホームページ、事務局からの案内等を見ることができない会員への対応について

【決定事項】

- ・ 総会案内など重要事項に関しては、HP を見ることができない方々には郵送でご案内をする。その他の情報は、ウェブやメールでの情報提供を行う。

7) 平成26年度 総会開催日、場所に関して、下記が確定される。

- ・ 開催場所：横浜赤レンガ倉庫
- ・ 開催日：10月24日～26日の間
- ・ 実施日の調整は事務局が行う。

« 事務局・PT長からの報告事項 »

- 1) PT 活動 25 年度活動報告および PT 活動 26 年度計画 (PT 長報告)
- 2) 内閣官房アンケート調査(沿岸域の総合的管理の取り組み事例調査)について
- 3) 国連生物多様性申請報告 (国連生物多様性の 10 年日本委員会推奨事業の認定に関して)
国連自然保護連合日本委員会が実施している「にじゅまる」プロジェクトの推進の中で、認定連携事業として承認される。
- 4) ロゴマークの選定状況に関して

平成25年度決算報告

2014/5/27

【収入の部】

(単位:円)

科 目	H25年度予算	H25年度決算	備 考
(1) 寄付金収入	0	33,300	
(2) 助成金収入	5,000,000	5,000,000	セブンイレブン記念財団
(3) 雑収入	0	128	
普通利息	0	128	
その他	0	0	
(A) 単年度収入合計	5,000,000	5,033,428	
(B) 前年度繰越金	0	0	
(C) 収入合計 =(A)+(B)	5,000,000	5,033,428	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	H25年度予算	H25年度決算	備 考
(1) 事務局経費	1,279,892	1,141,997	
1) 事務局人件費	916,960	828,042	4ヶ月(給与、通勤費等)
2) 事務局運営費	362,932	313,955	通信費、HP構築、サーバー借り上げ費等
(2) フォーラム及び大感謝祭費	3,720,108	3,892,974	企画運営委員会会場借り上げ費、フォーラム・感謝祭会場借り上げ費、広報宣伝費等
(D) 単年度支出計	5,000,000	5,034,971	
(E) 単年度収支差額 =(A)-(D)	0	-1,543	
(F) 次年度繰越金=(C)-(D)	0	-1,543	